

決算説明会

第2四半期(累計)

(2010年6月期)

2010年2月15日

株式会社 アルバック

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・太陽電池・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q(累計)：第2四半期連結累計期間

2Q : 第2四半期連結会計期間

■ 世界の急激な変化への対応

代表取締役会長 中村久三

■ 2010年6月期(2Q(累計))業績概要

■ 2010年6月期通期見通し

■ 今後の事業展開について

代表取締役社長 諏訪秀則

世界経済の変化

■不況の特徴

- ▶世界経済の中心が米国から中国へ移る過程
- ▶世界経済の成長を牽引する分野が「電子デバイスやITソフト」から「エネルギー・環境」と「資源・材料」の分野に移行
- ▶中国に続きインド、ロシア、中東、ブラジルなどで製造業の急成長が開始

1年間の変化は、さらに「鮮明」、さらに「加速」

■アルバックの対応

- ▶6年前から構造変化を見越し、ポストFPD戦略を推進
- ▶世界経済の変化が急激で大きな経営的影響を受ける

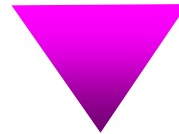
円高ドル安、デフレの進行

■米国

- ▶ 多額の借金、大量消費の結果発生した不良債権は、大不況でも十分に調整されず、依然として爆弾を抱えた状況

■中国

- ▶ 日本とほぼ同じ性能の製品が1/2~1/3の価格で製造販売



日本で「円高ドル安」「デフレ」が長期にわたって進行

- ◆ 世界経済の変化に由来
- ◆ 簡単に解消できない構造的なもの

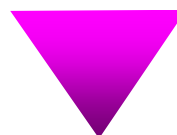
世界の急激な変化への対応

■ コモディティ化した商品

- ▶ 積極的に海外生産に移行
- ▶ コスト競争に勝ち抜きシェア拡大

■ 独創的商品

- ▶ 日本でアルバックしかできない商品を開発
- ▶ 新たなビジネスの拡大を図る



2つの課題を同時に成功させる



アルバックや日本の製造業が生き延び、
成長していく方法

世界の急激な変化への対応

■ エネルギー・環境分野、資源・材料分野

- ▶ 画期的で独創的な技術と商品を次から次に開発



日本企業の停滞の原因

画期的な技術を開発して守りの姿勢になり次世代や次々世代の開発を怠る傾向

一つの技術ではいずれ追いつかれる。どんどん新しい技術を連発し逃げ切る。

日本の特徴

- ◆ 技術者は非常に恵まれた環境
- ◆ 欧米、東アジア諸国に比べ製造業に必要なすべての分野を持つ唯一の国
- ◆ 独創的で最先端の技術や商品を作る最適地

ターンキー商品の開発

■ ターンキー商品の開発

- ▶ 真空の総合メーカーとして総合力を生かし、ターンキー商品の開発を実施
- ▶ ターンキーのラインアップを増やし受注活動開始
- ▶ アルバック装置だけでなく関連の全ての装置、工場、材料、サービス、ファウンドリ生産などを販売

■ ターンキー商品の販売

今後大きく成長する地域(中国、インドなど)でターンキー商品のみ販売可能

■ アルバックの成長のカギは、

独創的なターンキー商品が開発できるかどうかにかかっている

■ 世界の急激な変化への対応

代表取締役会長 中村久三

■ 2010年6月期(2Q(累計))業績概要

■ 2010年6月期通期見通し

■ 今後の事業展開について

代表取締役社長 諏訪秀則

‘10/6期2Q(累計)業績概況

■受注・売上 →1Qを底に2Qで急回復

- ▶太陽電池関連：当初予想値に対し低調に推移。2Qは日本中心に受注獲得。
- ▶FPD関連：中国の家電下郷政策などの特需で設備投資が活発化し、受注開始。
- ▶半導体(LED含む)、電子部品関連：受注・売上が回復

■損益

- ▶1Q：売上高が落ち込み大幅な営業赤字
- ▶2Q：液晶、太陽電池が寄与し、営業黒字を確保。
地域では韓国、中国が貢献。

10/6期 2Q(累計)実績

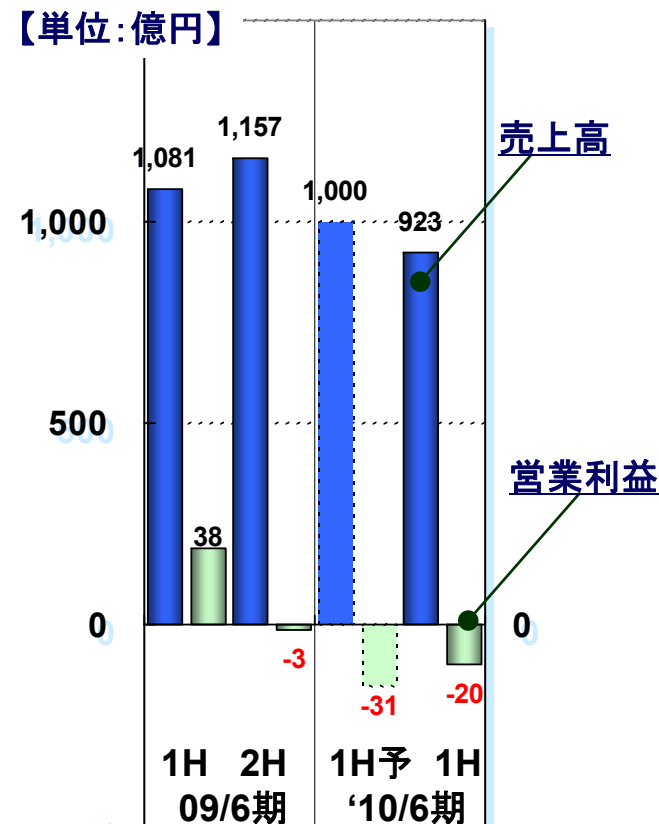
受注高は、FPDなどの前倒しなどで予想値を上回る。売上高は、PV、中古機ビジネスなどで予想値を下回る。業績は、1Qは大幅な営業赤字であったが、2QにFPDなどが寄与し、赤字幅を縮小。経常利益は為替差益や補助金などで予想値を上回る。

【単位:億円】

	09/6期 2Q(累計)	2010/6期 2Q(累計)			
		予想	実績	増減額	予想比 増減率
受注高	1,149 (-1%)	1,110 (-3.4%)	1,189 (+3.5%)	79	7%
受注残高	1,642	1,193	1,353		
売上高	1,081 (-7%)	1,000 (-8%)	923 (-14.6%)	-77	-8%
営業利益	38 (+3%)	-31 (-)	-20 (-)	11	-
営業利益率	3.5%	-3.1%	-2.2%		
経常利益	12 (-50%)	-42 (-)	-18 (-)	24	-
経常利益率	1.1%	-4.2%	-1.9%		
当期(四半期)純利益	14 (-38%)	-37 (-)	-12 (-)	25	-

売上高と営業利益の推移

【単位:億円】



【()内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

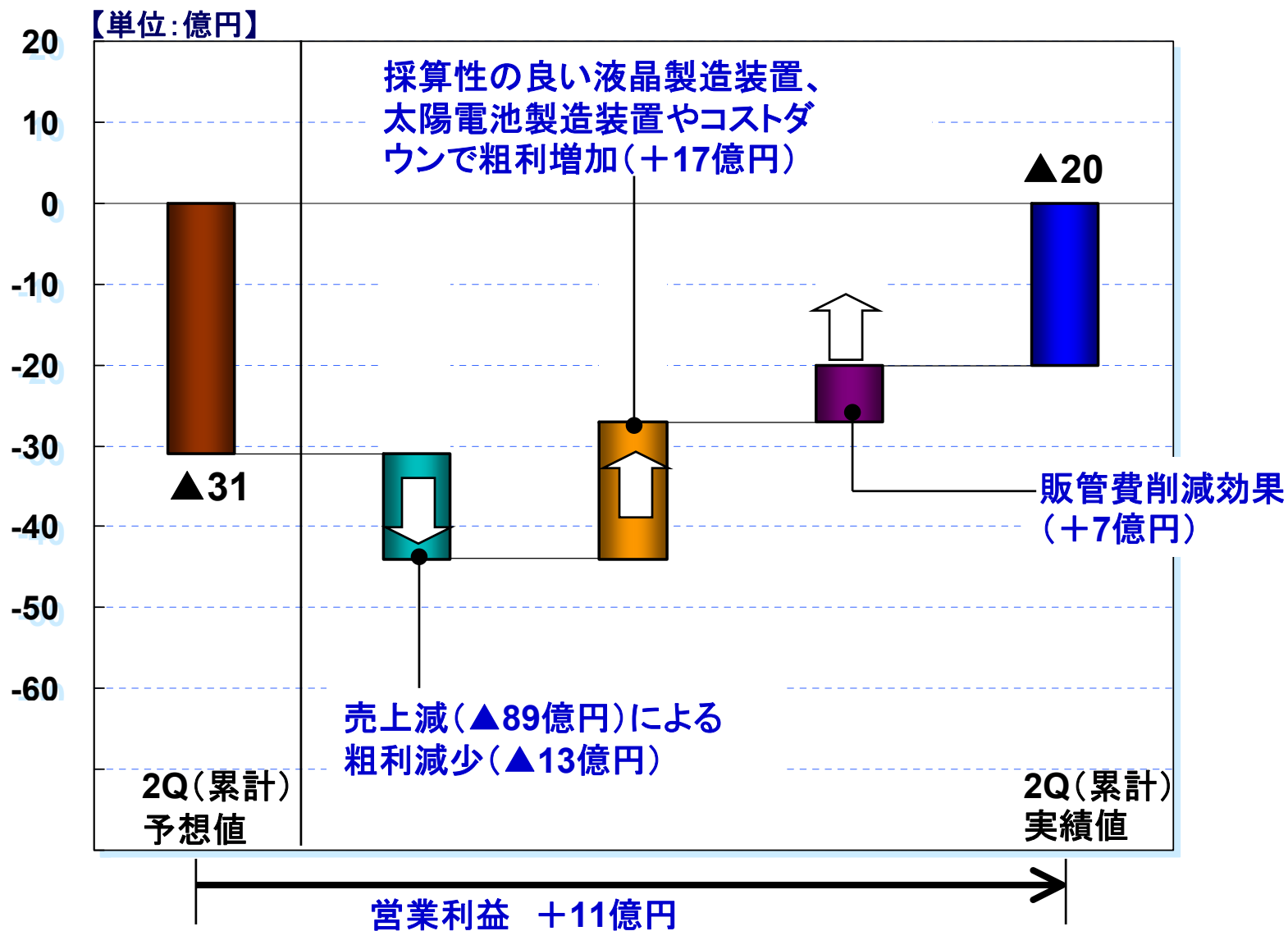
品目別売上高の実績(2Q(累計))

【単位:億円】

セグメント及び品目	'10/6期 2Q(累計)			主な変動要因
	予想値 (11/12修正)	実績		
		売上高	予想比 (増減率)	
真空機器事業	793	741	-7%	
FPD製造装置	360	347	-4%	納入装置の売上期ズレなど
PV製造装置	180	163	-9%	受注時期の期ズレなど
半導体及び電子 部品製造装置	105	99	-6%	—
コンポーネント	95	84	-11%	PV向け真空ポンプなど受 注回復の遅れなど
一般産業用装置	53	48	-10%	—
真空応用事業	207	182	-12%	
材料・部材	107	101	-6%	販売価格下落など
その他	100	81	-19%	制御関連の投資回復遅れ など
合計	1,000	923	-8%	

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

営業利益増減分析(10/6期 2Q(累計))



■ 世界の急激な変化への対応

代表取締役会長 中村久三

■ 2010年6月期(2Q(累計))業績概要

■ **2010年6月期通期見通し**

■ 今後の事業展開について

代表取締役社長 諏訪秀則

経営環境とアルバックの対応

マーケット全体

- ・各国の出口戦略の行方如何で世界経済が再び悪化するリスク
- ・日本は「デフレ」や「円高」による二番底の懸念のリスク
- ・世界の製造業が中国に集中。他の新興国も追随。

予断を許さない
経営環境

液晶、PV、自動車、家電、一般産業
などあらゆる分野で積極投資

アルバックの対応

現地法人の体制強化、
品質向上で受注拡充

FPD関連

薄型TVなど需要回復。Win7、3Dテレビ、電子ペーパーなど新たな潮流

中国の投資が本格化

豊富な納入実績、磐石な
サポート体制で受注獲得へ

低温ポリシリコン(LTPS)、
有機ELの引き合い急増

タイムリーな開発で
確実な受注獲得へ

PV(太陽電池)製造装置

地球温暖化対策が本格始動

普及期を迎え引き合いが旺盛

結晶系、化合物系、薄膜系
装置の開発を加速し拡販

経営環境とアルバックの対応

半導体及び電子部品製造装置

LED

LCDバックライト、
照明など高成長

メモリ

微細化

一般産業用装置

エネルギー・環境関連が成長

世界規模で環境対応車の成長に期待

材料・部材

液晶での需要増加、原材料価格が不安定

新たに中国での需要が増加

その他

EVインフラ需要増大、PV用途
の多様化

アルバックの対応

日本、台湾、中国、韓国等
でシェア拡大

既存顧客への確実なフォロー

フィルムコンデンサなどの製造
装置の拡販

リサイクルを含めた材料ビジネス
のサプライチェーンの確立

PV部材ビジネスの推進

急速充電システム、PV・EV
複合システム、太陽光発電
システムなどへの本格参入

2010/6期業績予想

受注高は、FPD、半導体・電子が上ブレの一方、PVの回復が遅れる予想。
 売上高は、PVの不調をFPD、半導体・電子が補う。業績は、FPD、半導体・電子が、
 地域では韓国、中国が寄与する見込み。

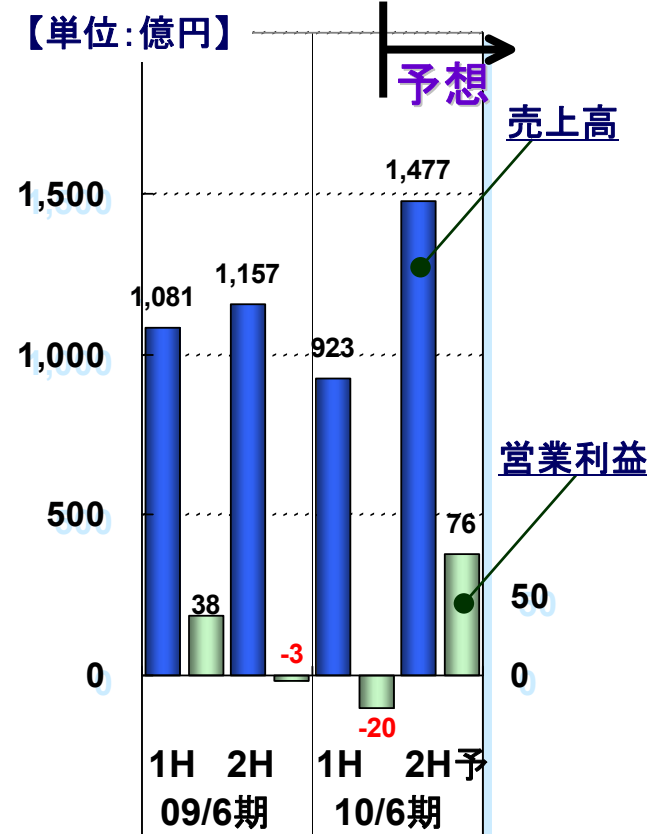
【単位:億円】

	2010/6期予想		09/6期実績	前年同期比 (増減率)
	2Q(累計)実績	通期		
受注高	1,189 (+3.5%)	2,120	1,722 (-41%)	+23%
受注残高	1,353	807	1,079	
売上高	923 (-14.6%)	2,400	2,238 (-7%)	+7%
営業利益	-20 (-)	56	35 (-62%)	+61%
営業利益率	-2.2%	2.3%	1.6%	
経常利益	-18 (-)	31	8 (-84%)	+271%
経常利益率	-1.9%	1.3%	0.4%	
当期純利益	-12 (-)	11	8 (-78%)	+36%

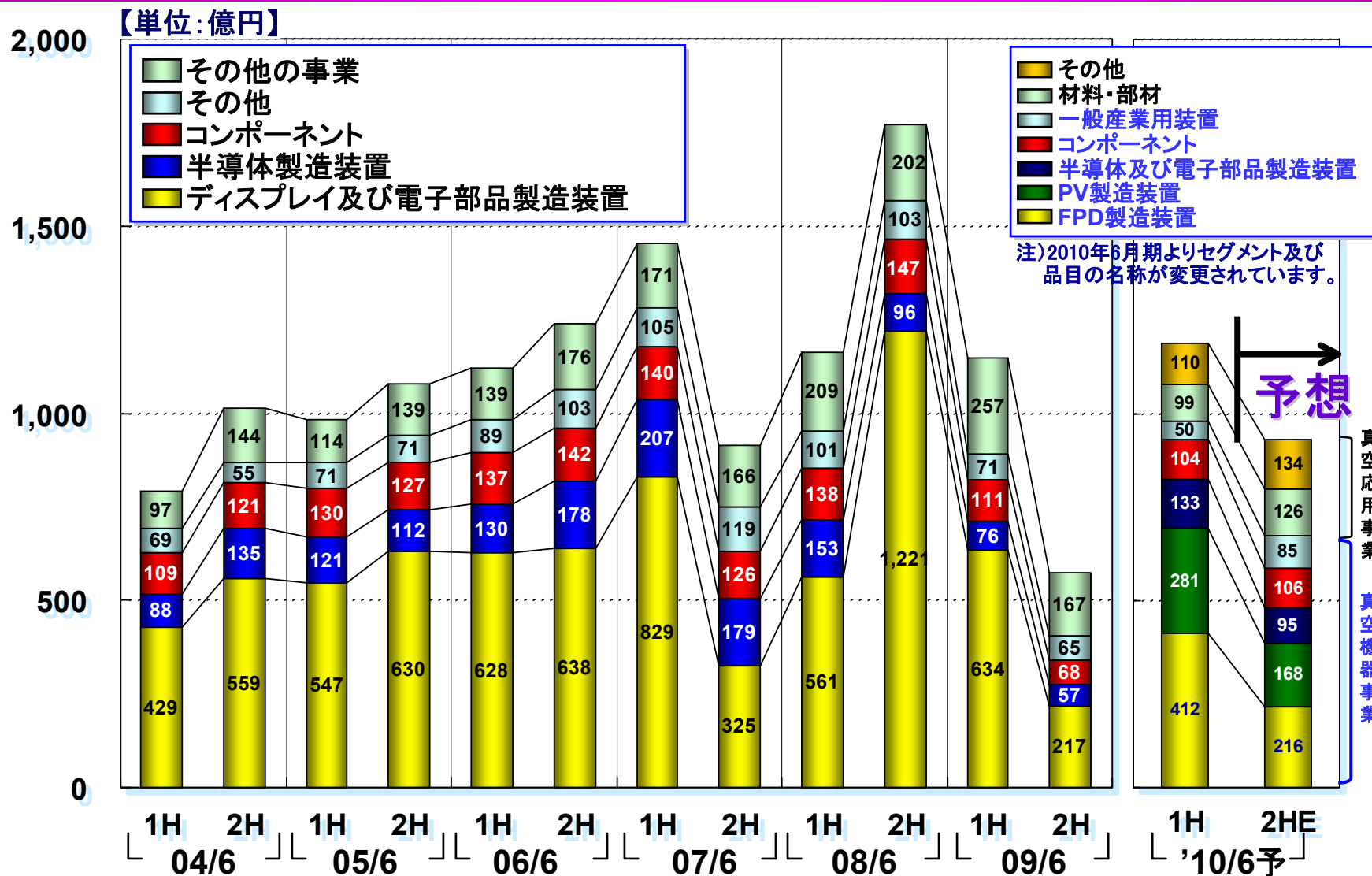
【業績予想の修正はありません】

【()内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

売上高と営業利益の推移

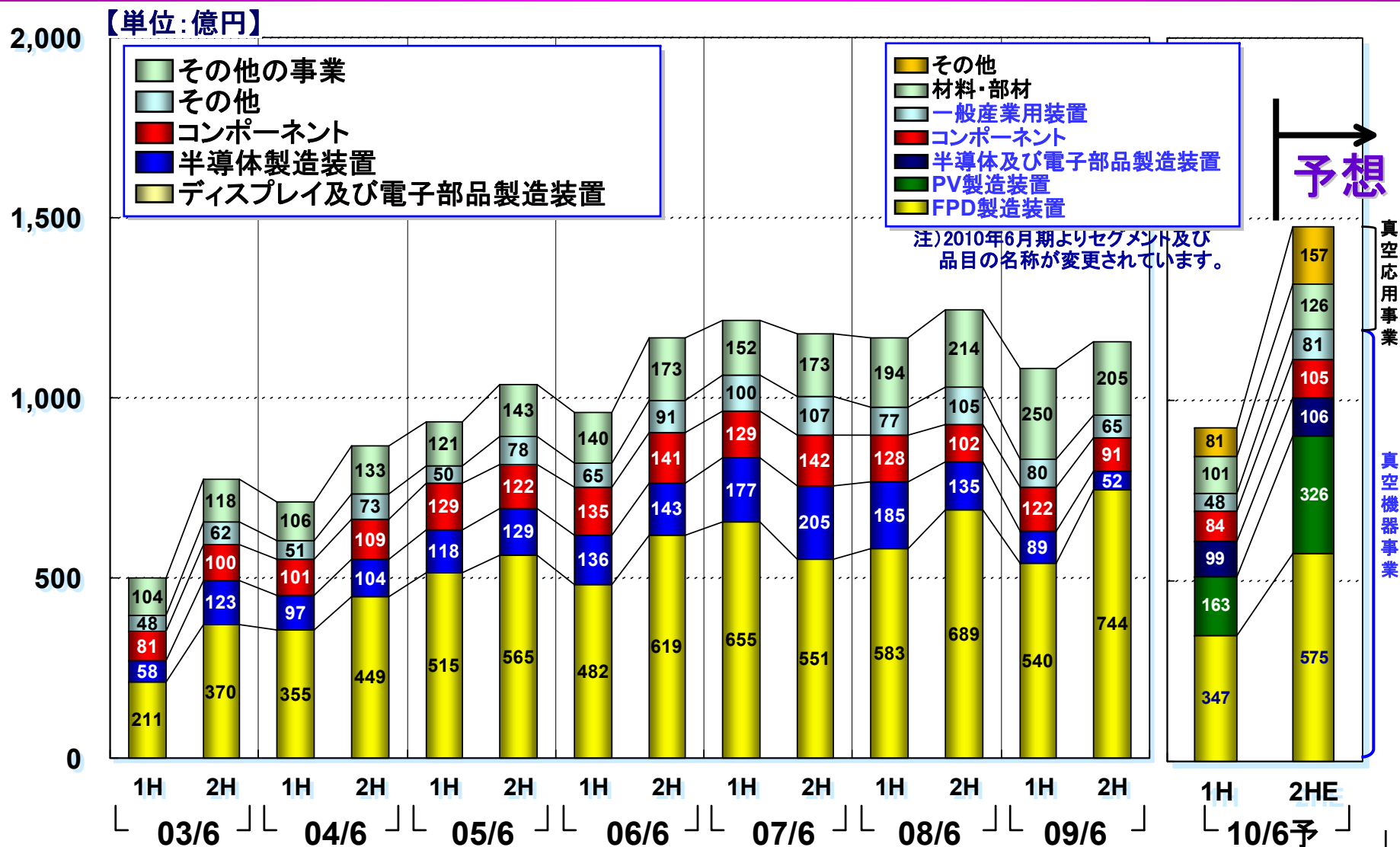


品目別受注高推移・予想



【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

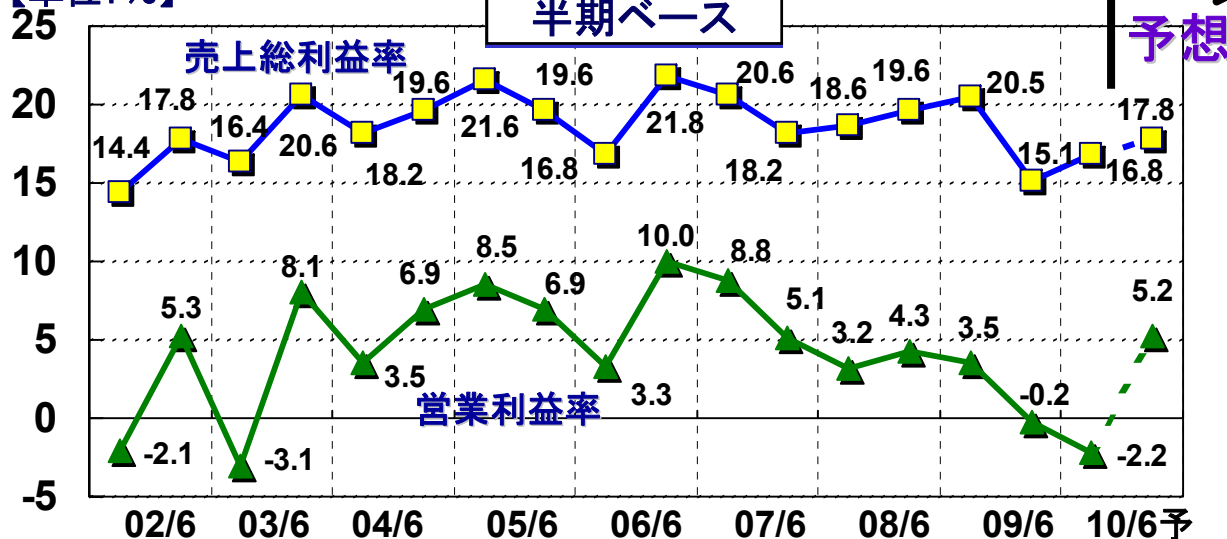
品目別売上高推移・予想



【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

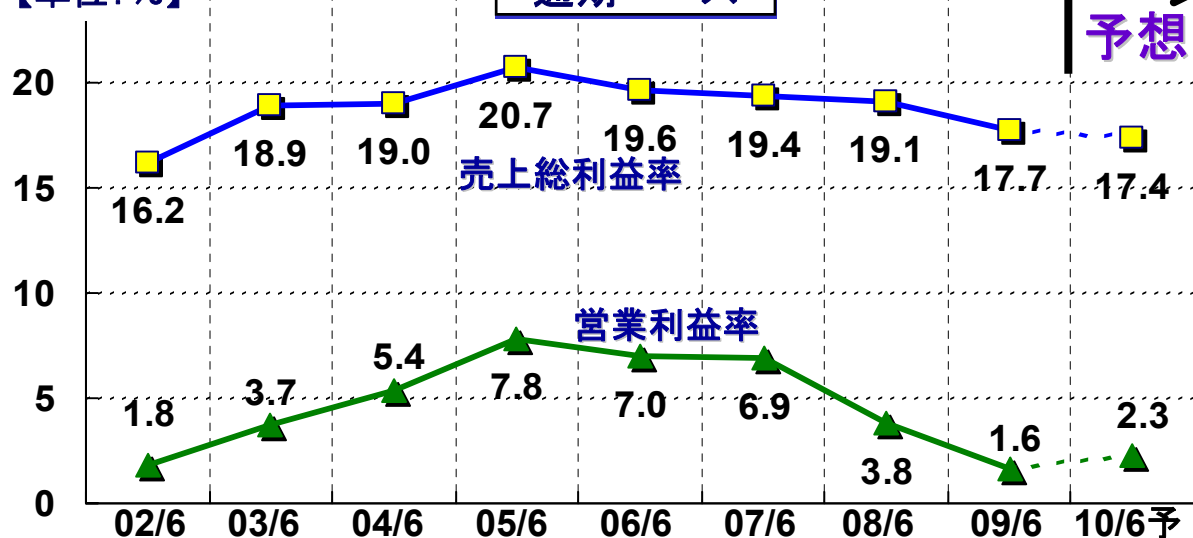
利益率の推移・予想

【単位：%】



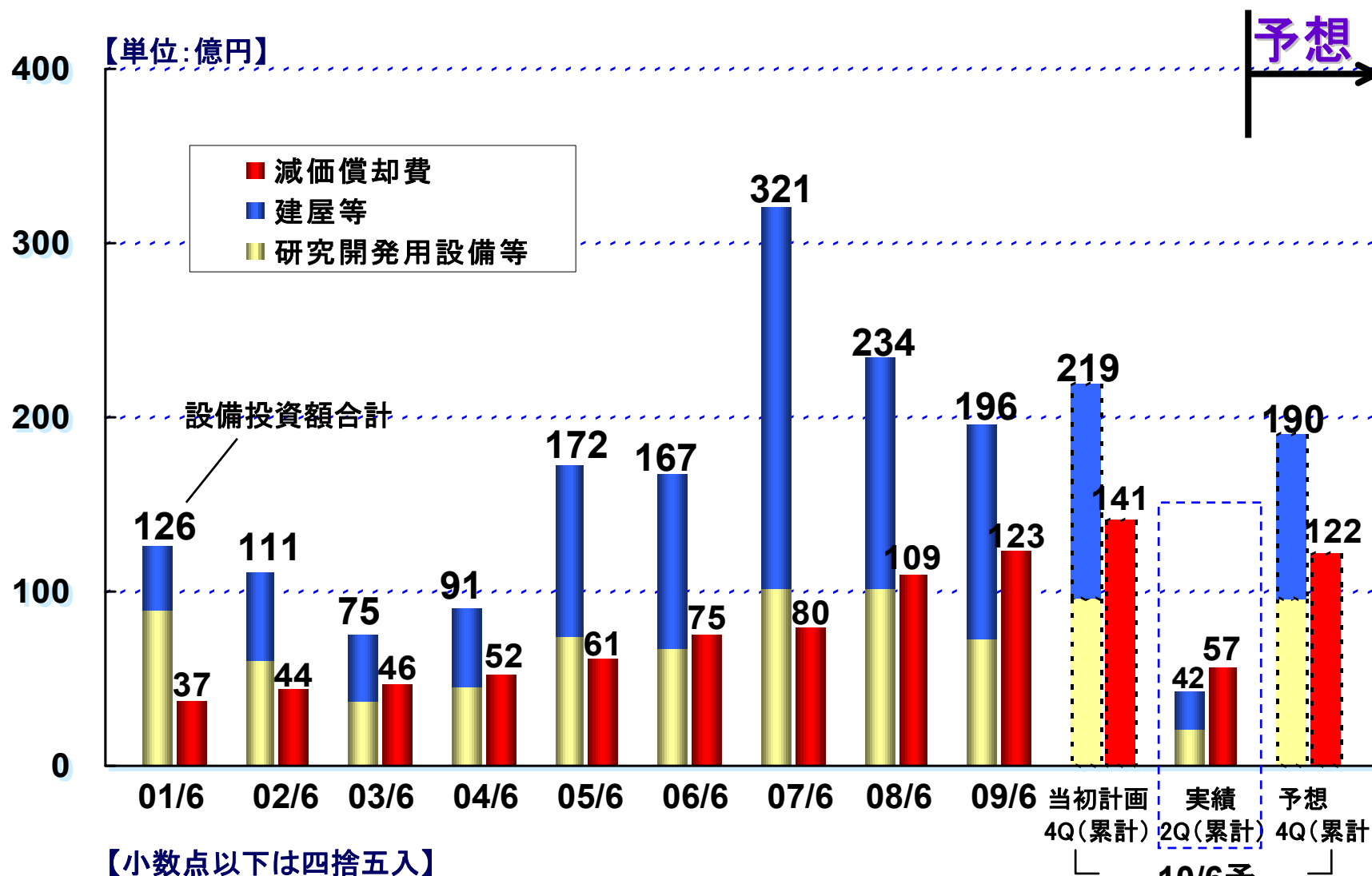
- 2010/6期予想
- ▶ 下期は収益改善し、通期でも回復
- ◎ 下期収益改善要因
 - ◆ 液晶の受注回復で売上増
 - ◆ 半導体売上増で利益増
 - ◆ 日本向けPV(太陽電池)関連の回復で売上急増

【単位：%】

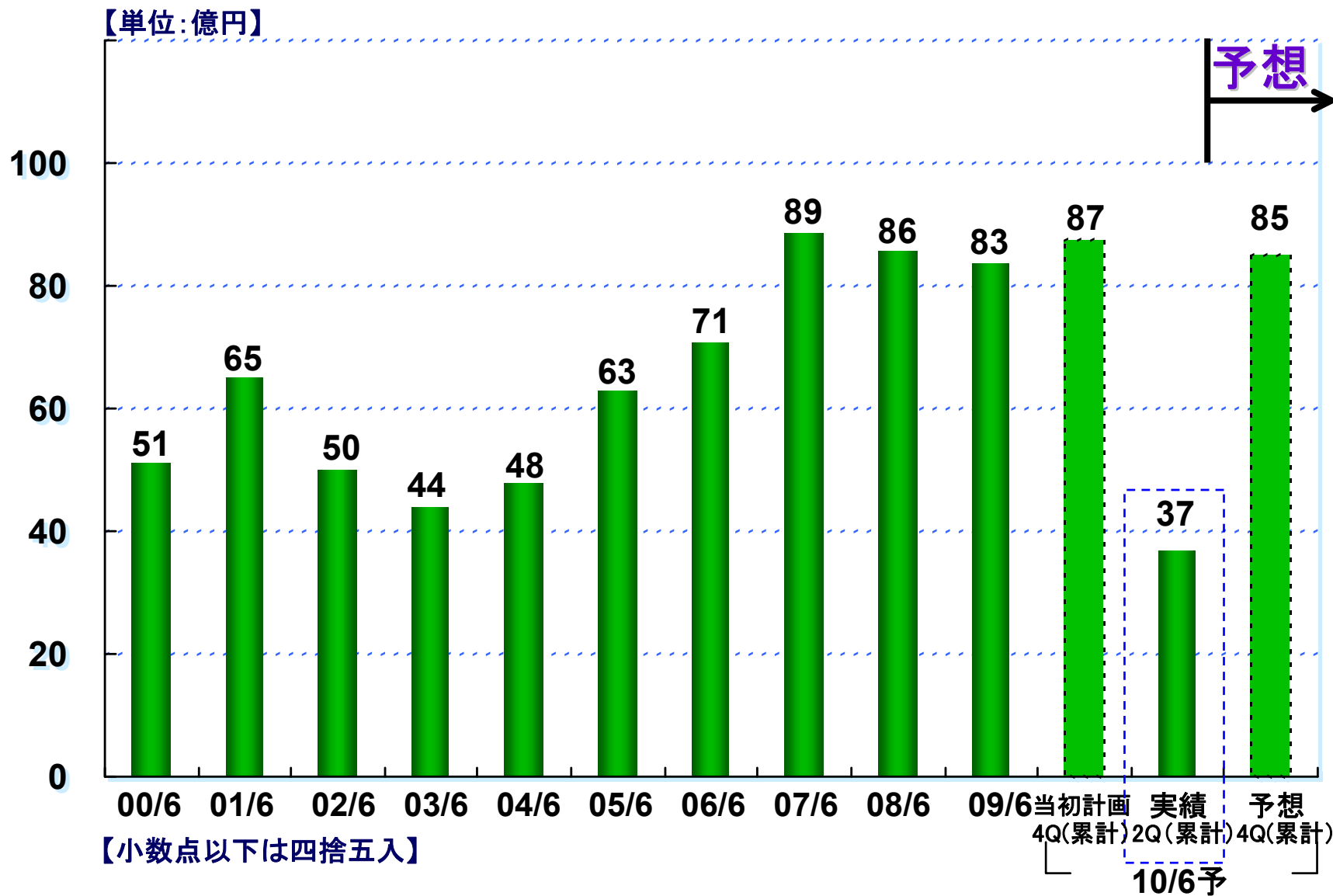


【小数点以下第2位は四捨五入】

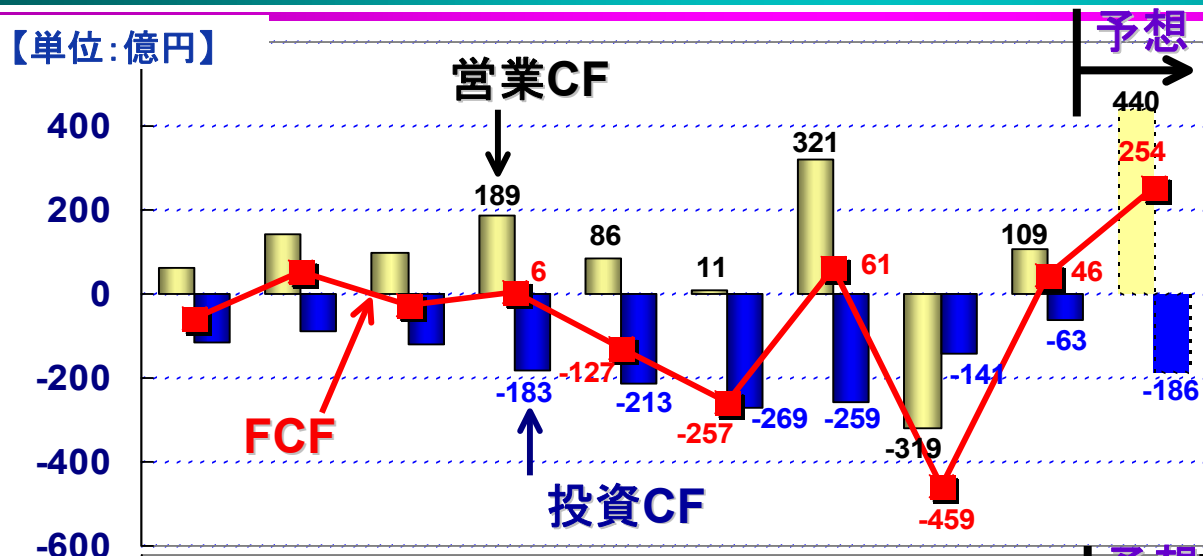
設備投資、減価償却費の推移・予想



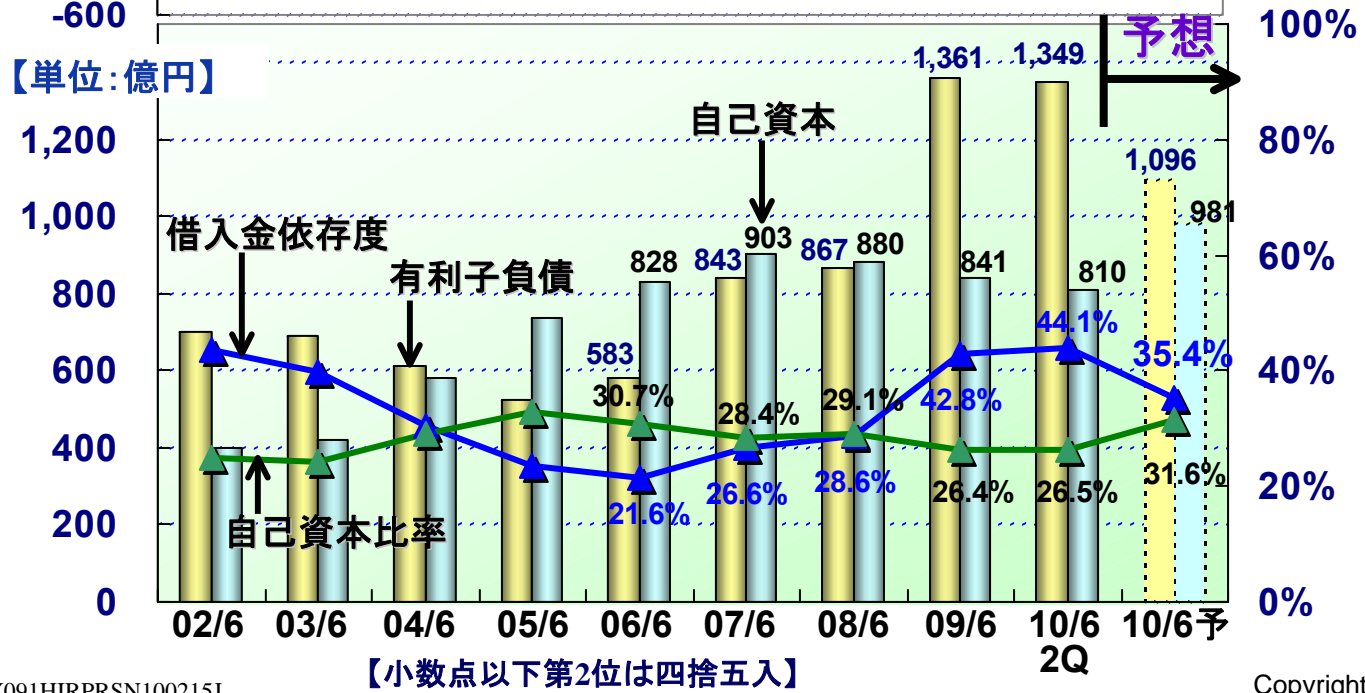
研究開発費の推移・予想



キャッシュ・フローと有利子負債の実績・予想



■ 戦略投資資金の確保のため
2010年1月7日
公募増資決議
により148億円の
資金調達を実施



■ 世界の急激な変化への対応

代表取締役会長 中村久三

■ 2010年6月期(2Q(累計))業績概要

■ 2010年6月期通期見通し

■ 今後の事業展開について

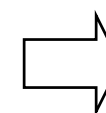
代表取締役社長 諏訪秀則

増資について(資金使途・テーマ別分類)

■ 増資調達資金(10年1月) 約147億円(※)

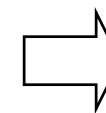
目的：PV、マテリアル、中国の事業拡大

- ▶ エネルギー・環境関連 82億円
 - ・太陽電池関連装置の研究開発(71億円)
 - ・環境対応車、二次電池関連装置の研究開発(11億円)



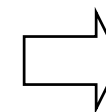
発電効率向上、
ワット当り単価
の低減

- ▶ 資源・材料ビジネス関連 41億円
 - ・鹿児島工場の設備投資(16億円)
(PV、大型ディスプレイ向けターゲット材料等)
 - ・研究開発(新商品、性能向上、リサイクル法等)(25億円)



材料と装置を
車の両輪として
シナジー効果

- ▶ 中国投資 11億円
 - ・中国 愛発科真空技術(蘇州)有限公司への出資(5億円)
(LED製造装置生産のための工場増設資金)
 - ・研究開発会社設立資金の借入金返済(6億円)
(中国で生産したLED製造装置の信頼性向上・販売支援等)



中国ビジネス
を加速

- ▶ その他 13億円
 - ・LED製造装置の研究開発(8億円)
 - ・借入金返済(5億円)


(※)一般募集分、発行諸費用概算額を控除。

太陽電池関連の開発

- ▶ 薄膜Si太陽電池で発電効率と発電コストの両方を改善できるタンデム型ターンキー装置を開発し販売を開始。更なる発電効率向上を目指す。



マイクロクリスタルシリコン用CVD装置

- ▶ テュフラインランド社  TÜVRheinland® Precisely Right. と共同で太陽電池評価センターを設置。一貫装置だけでなく部材の認証と販売が可能。太陽電池関連事業の拡大を目指す。



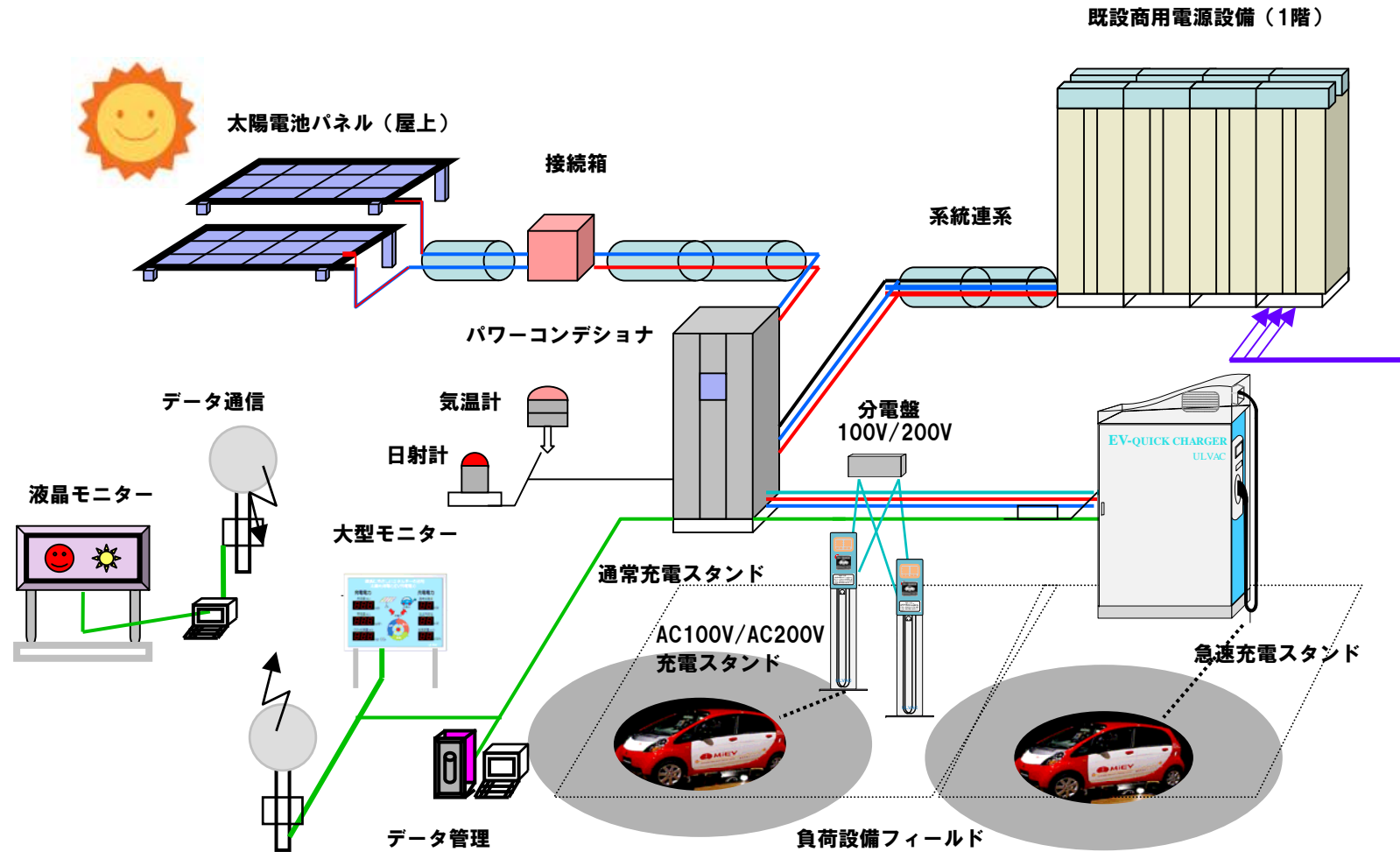
太陽電池評価センター

- ▶ 太陽光発電設備と電気自動車(EV)向け急速充電器を組合わせた充電システムを製品化。国内外への積極的な拡販を展開。

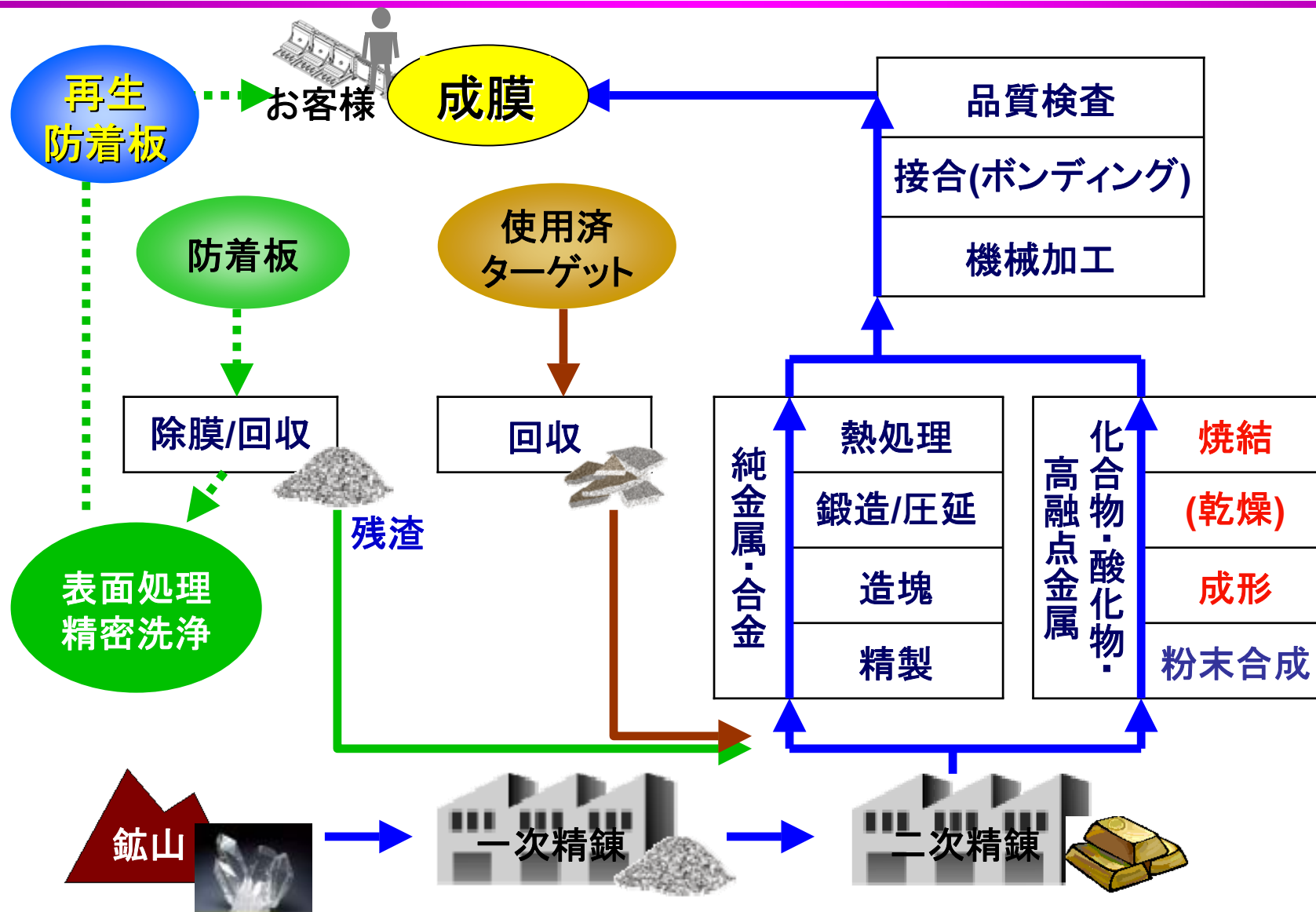


茅ヶ崎本社工場に設置した急速充電システム

太陽光発電+EV充電システム構築



マテリアル事業への新規投資

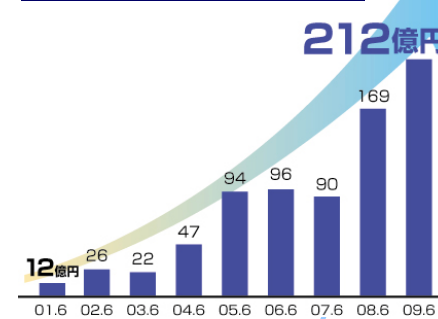


成長する中国市場への展開を加速

■ 中国ビジネスの成長(04/6期→09/6期)

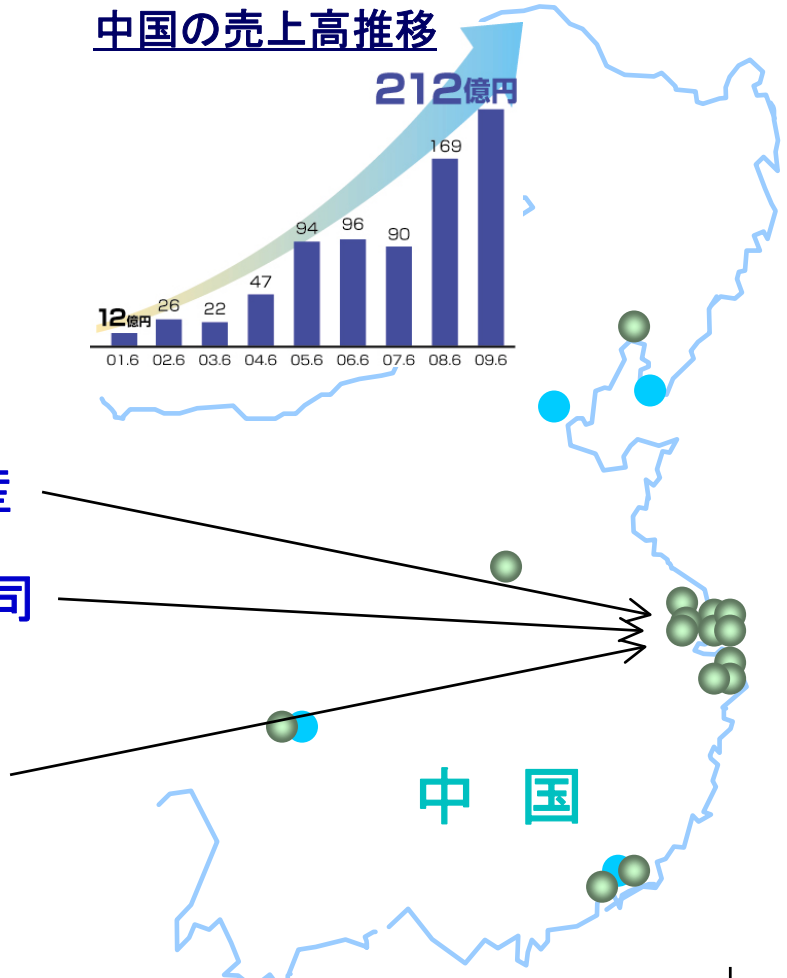
- ▶ 事業展開の拡大(3社→15社)
- ▶ 売上高が増大(47億円→212億円)

中国の売上高推移



■ 更なる展開

- ▶ 愛発科真空技術(蘇州)有限公司の工場増設で、LED製造装置の増産
- ▶ 愛発科(蘇州)技術研究開発有限公司を設立し、LED製造装置の開発
- ▶ 愛発科電子材料(蘇州)有限公司で、マテリアルビジネスの展開



真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック
ULVAC

本日は
ありがとうございました

連結貸借対照表(資産の部)

添付資料

【単位:億円】

	09/6期 2Q (参考)	09/6期	10/6期 2Q	増 減
流動資産	2,278	1,993	1,890	△ 103
固定資産	1,214	1,188	1,169	△ 18
有形固定資産	1,000	965	932	△ 34
無形固定資産	37	38	45	6
投資その他の資産	176	184	193	9
資産合計	3,492	3,181	3,060	△ 121

資産の部:121億円減少

流動資産:103億円減少

- ◆受取手形及び売掛金 32億円増加(売上増加による)
- ◆たな卸資産 120億円減少(売上増加による)

固定資産:18億円減少

- ◆有形固定資産 34億円減少(減価償却による)

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位:億円】

	09/6期 2Q (参考)	09/6期	10/6期 2Q	増 減
(負債の部)				
流動負債	2,013	1,518	1,435	△ 83
固定負債	567	762	768	7
負債合計	2,581	2,279	2,203	△ 76
(純資産の部)				
純資産合計	911	902	857	△ 45
負債及び純資産合計	3,492	3,181	3,060	△ 121

負債の部 :76億円減少

- ◆支払手形及び買掛金 51億円減少(受注減少による)
- ◆短期借入金 46億円減少(運転資金減少による)

純資産の部:45億円減少

- ◆四半期純損失 12億円計上
- ◆評価・換算差額等 7億円減少(為替換算調整勘定の減少等)
- ◆少数株主持分 13億円減少

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

主な新設工場、新拠点の設立(10/6期(2Q(累計))・今後の予定

中国

■愛発科電子材料(蘇州)



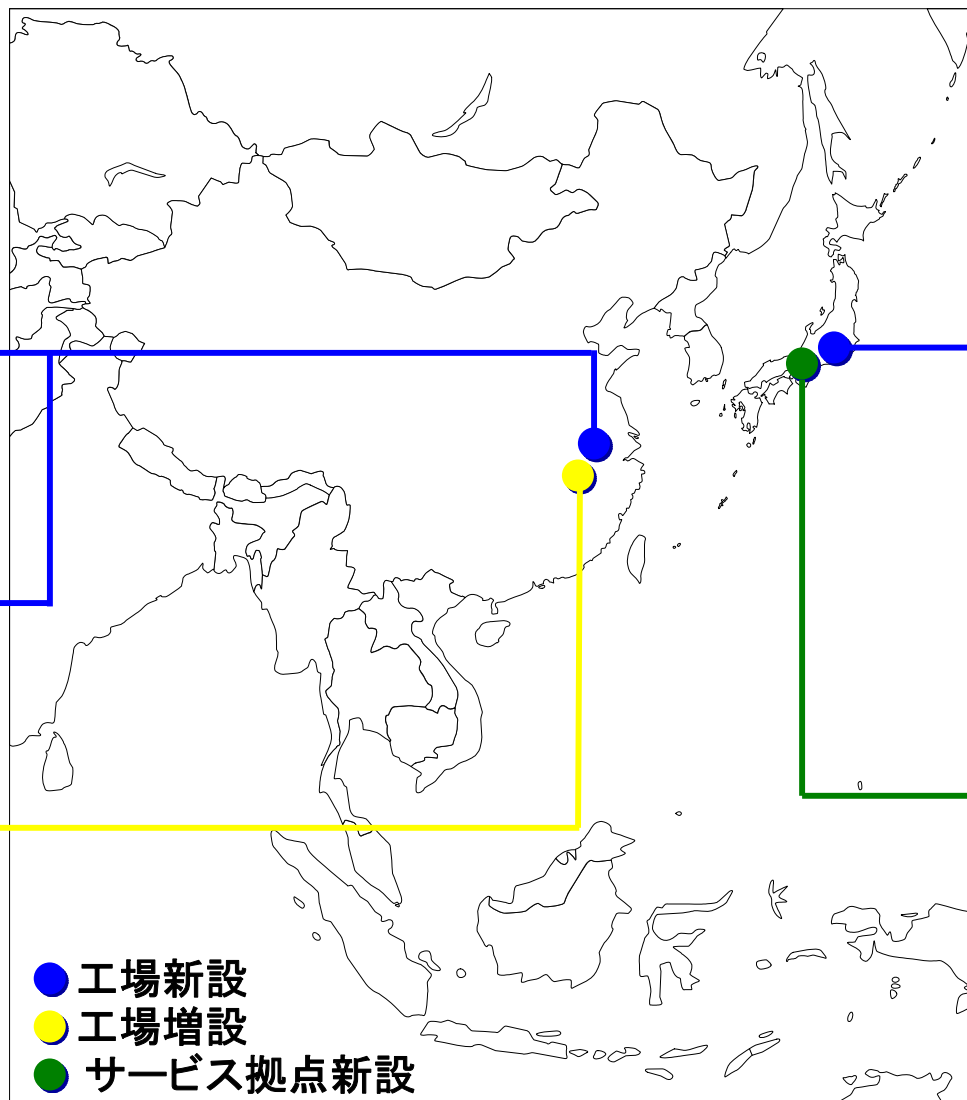
◆2009年10月着工
2010年7月竣工予定

■愛発科(蘇州)技術研究 開発設立

◆2009年12月設立
2010年9月業務開始予定

■愛発科真空技術(蘇州) 第3期工場増設

◆2010年1月着工
2010年9月竣工予定
(蘇州市)



日本

■千葉超材料研究所



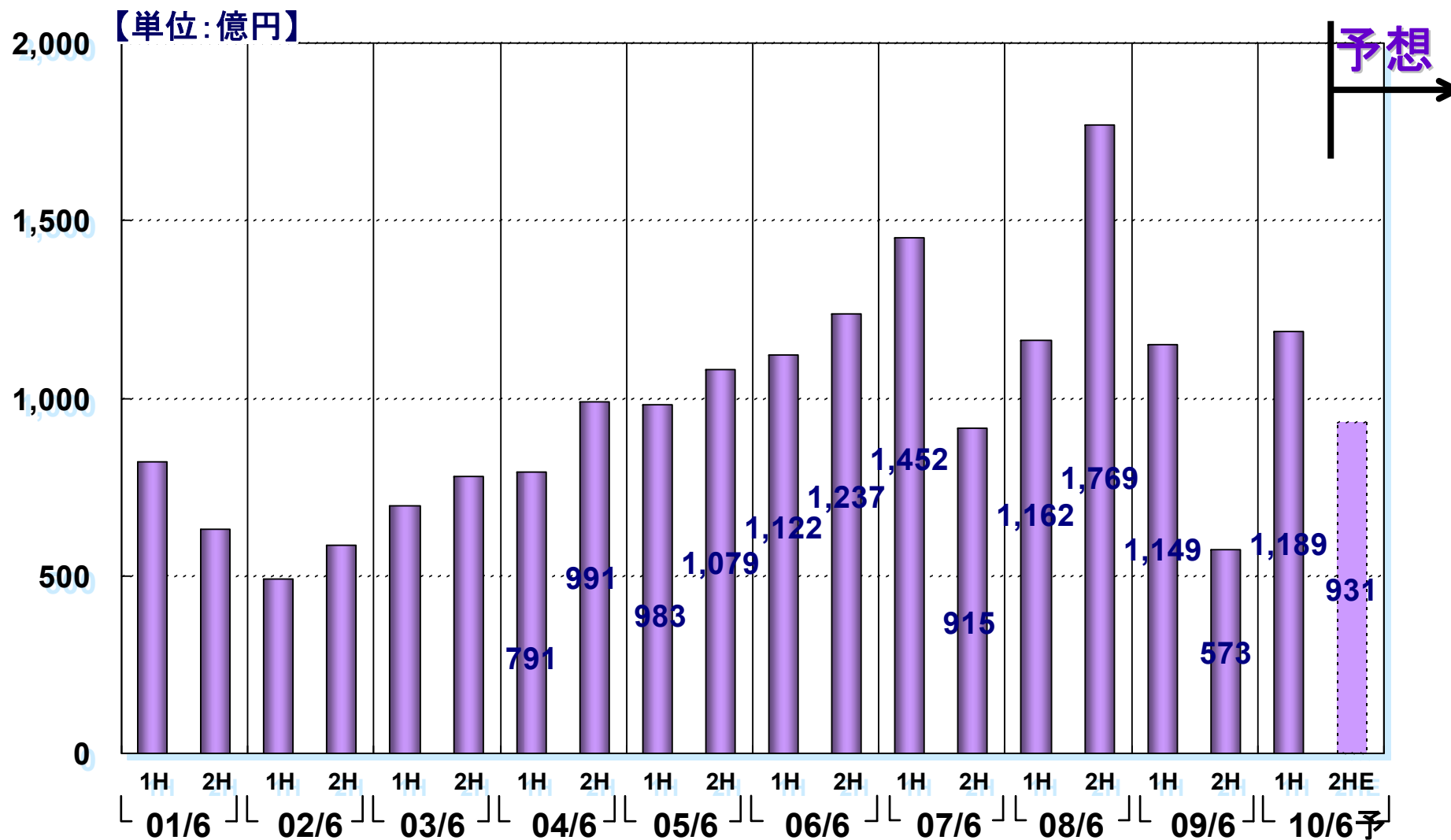
◆2009年7月着工
2010年3月竣工予定
(千葉県富里市)

■カスタマーサポート 拠点新設



◆2009年11月稼働開始
(和歌山県橋本市)

受注高推移・予想

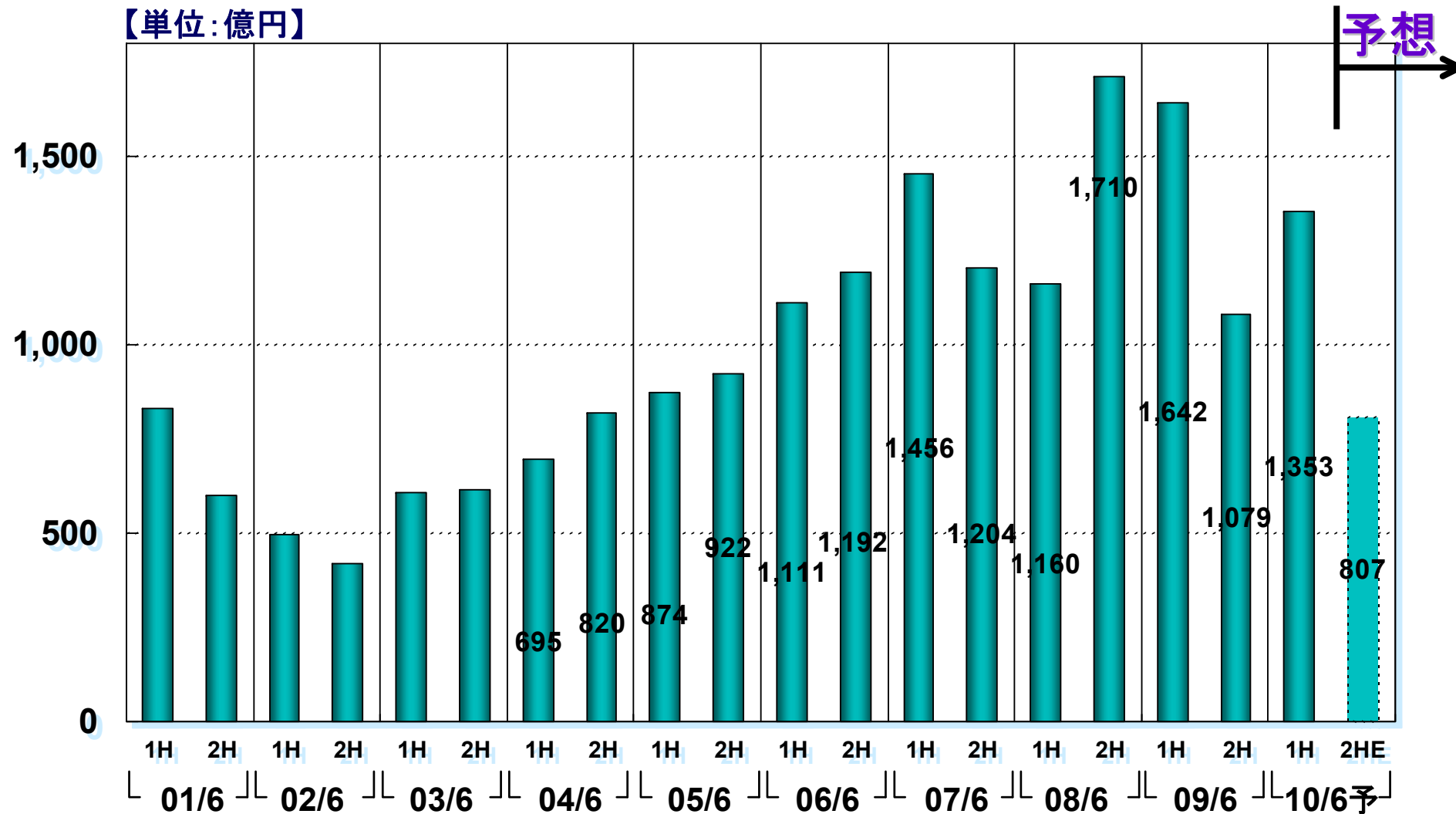


【小数点以下は四捨五入】

受注残高推移・予想

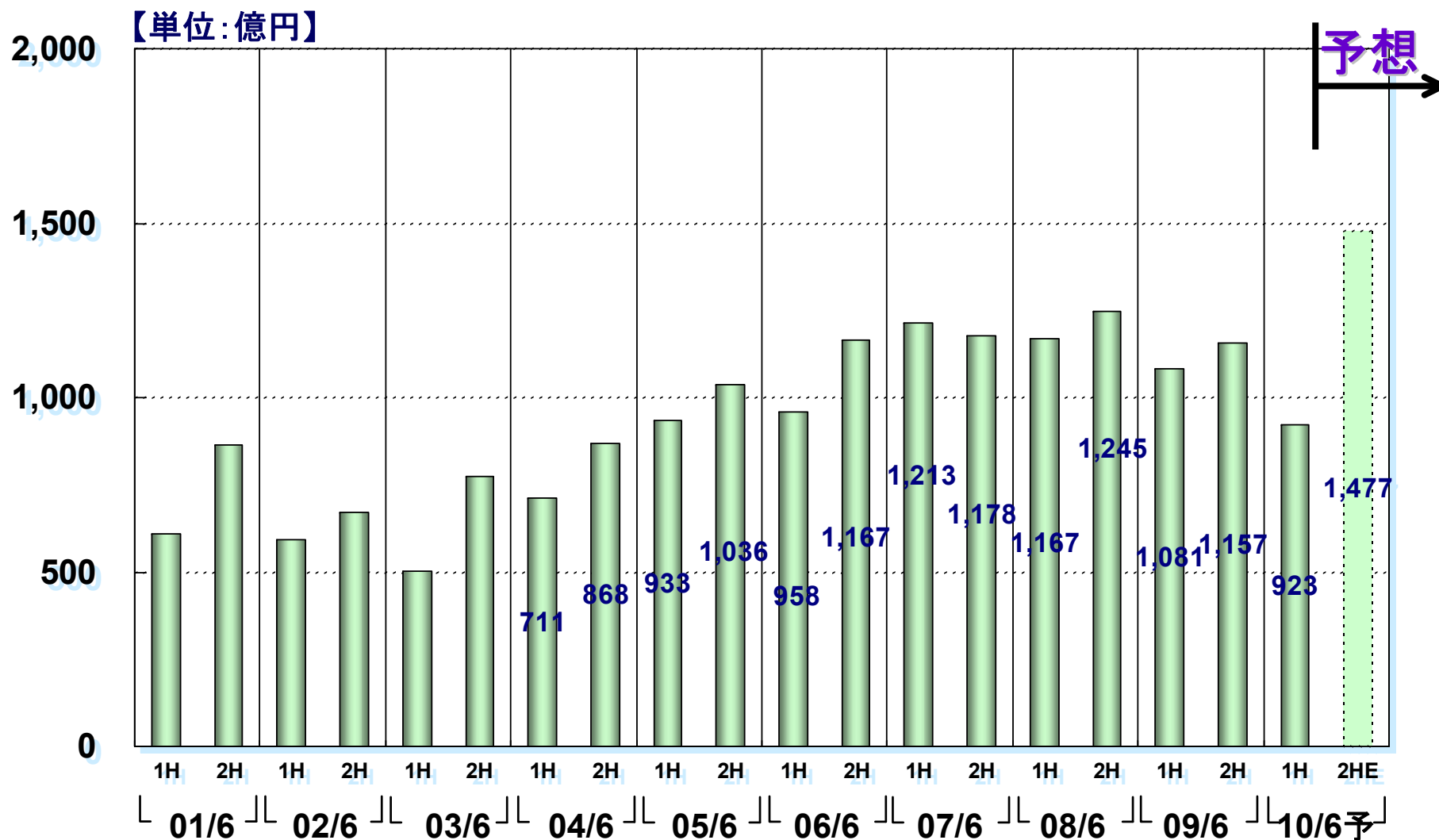
添付資料

【単位：億円】



【小数点以下は四捨五入】

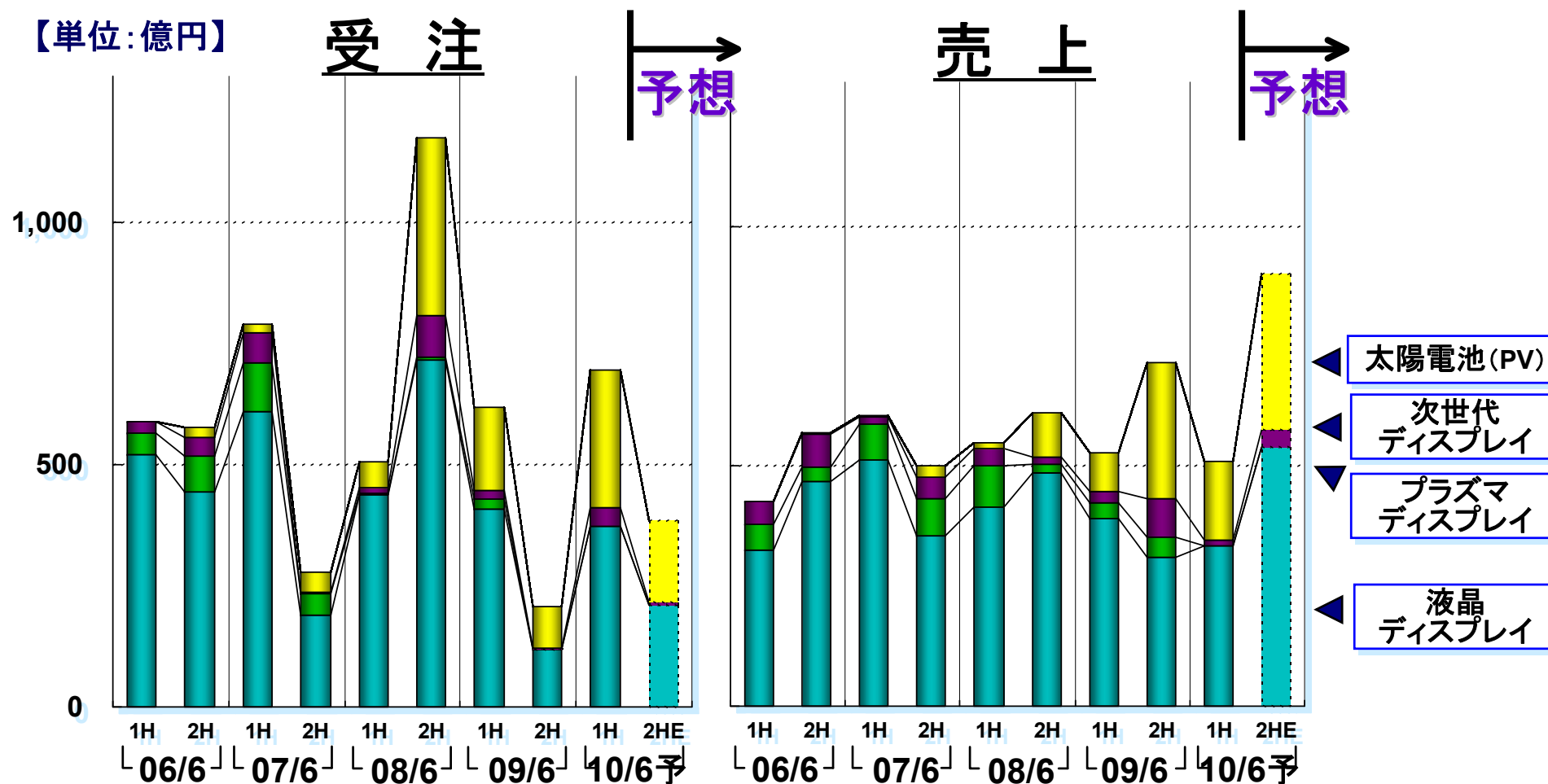
売上高推移・予想



【小数点以下は四捨五入】

FPD製造装置・PV製造装置の推移・予想

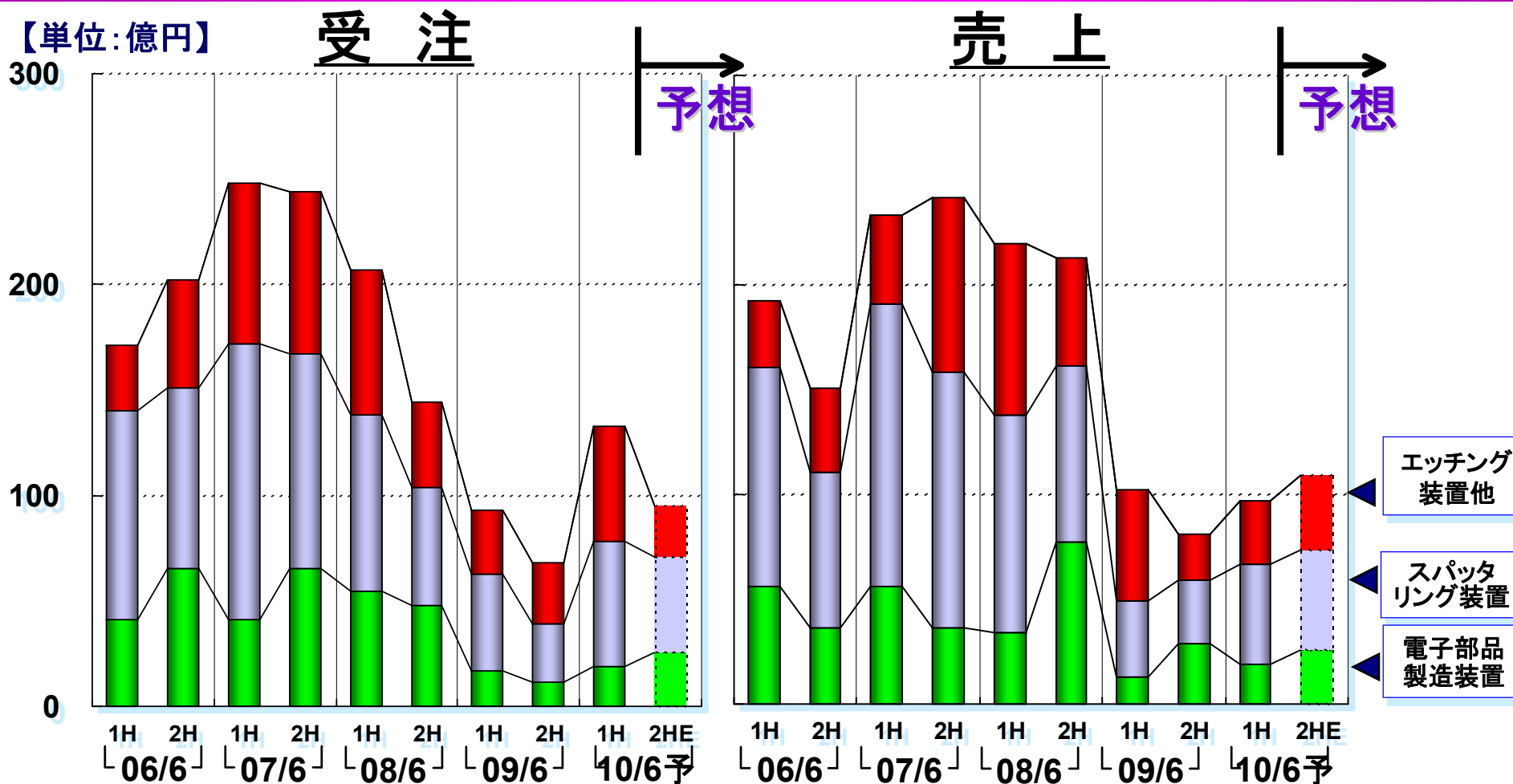
【単位：億円】



足元の受注環境

- ◆液晶ディスプレイは、韓国、中国、台湾を中心に設備投資が再開。
- ◆有機EL、低温ポリシリコン(LTPS)の引き合いが増加。
- ◆太陽電池は、日本が大半を占める。アジアでは様子見が続く。

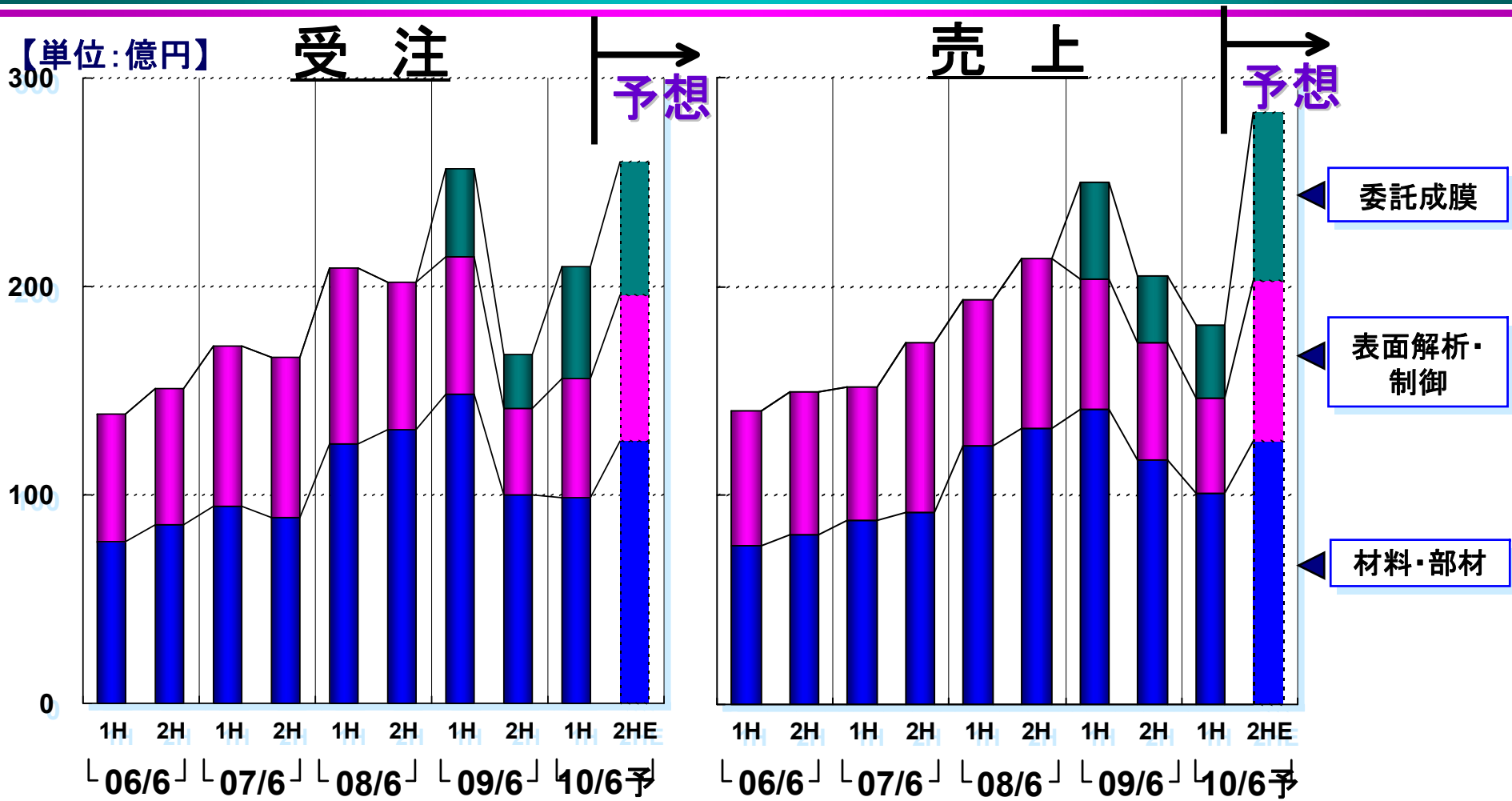
半導体及び電子部品製造装置の推移・予想



足元の受注環境

- ◆DRAM、フラッシュメモリは微細化投資が堅調。台湾、韓国に期待。
- ◆LED関連の引き合いが堅調。日本、韓国、台湾、中国などが急成長。

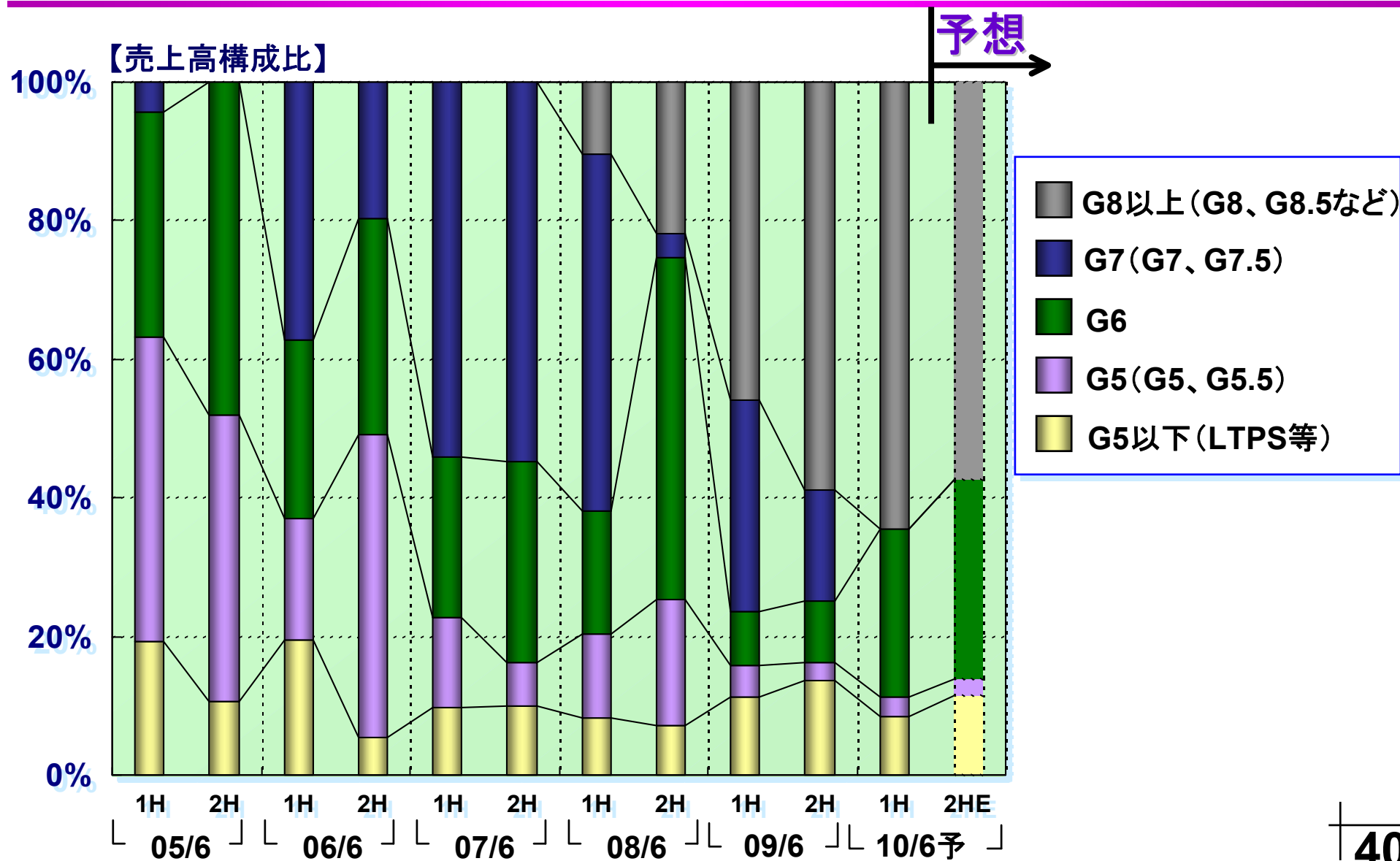
真空応用事業(その他の事業)の推移・予想



足元の受注環境

- ◆液晶を中心としたFPD業界の稼働率が向上し、ターゲット材料ビジネスが回復。韓国、台湾、中国に期待。
- ◆中国向け中古機ビジネスの引き合いが急増。熾烈なコスト競争に強いられる。

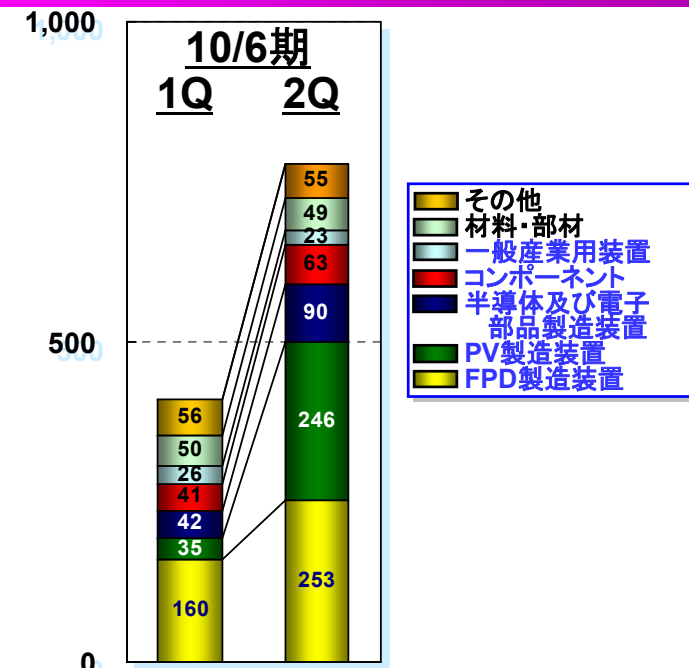
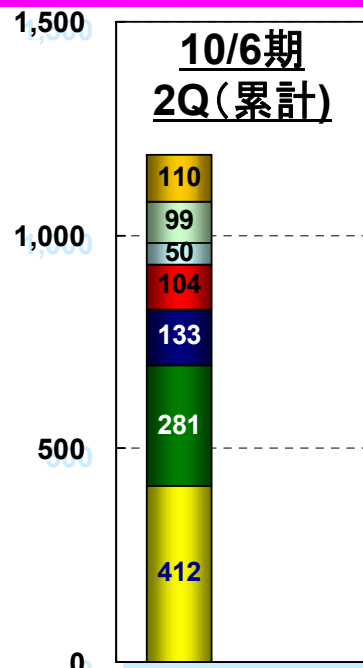
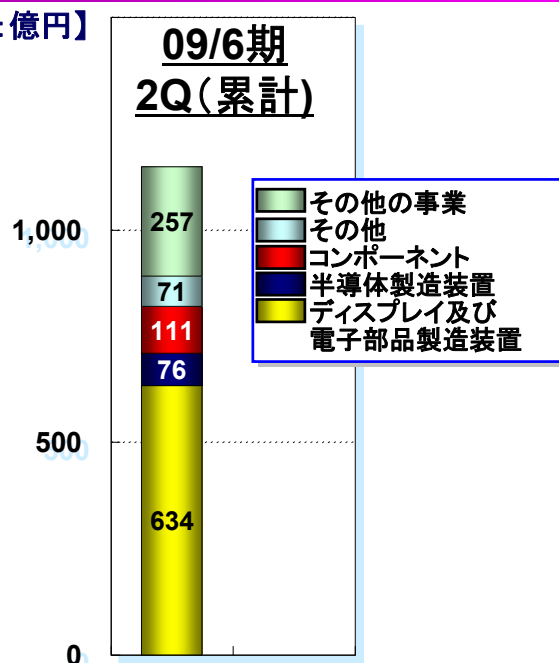
液晶ディスプレイ製造装置の世代の推移・予想



品目別受注高の実績

添付資料

【単位：億円】



09/6期 2Q(累計)		
品目	受注高	構成比
真空関連事業	892	78%
ディスプレイ及び電子部品製造装置	634	55%
半導体製造装置	76	7%
コンポーネント	111	10%
その他	71	6%
その他の事業	257	22%
合計	1,149	100%

10/6期 2Q(累計)		
品目	受注高	構成比
真空機器事業	980	82%
FPD製造装置	412	35%
PV製造装置	281	24%
半導体及び電子部品製造装置	133	11%
コンポーネント	104	9%
一般産業用装置	50	4%
真空応用事業	209	18%
材料・部材	99	8%
その他	110	9%
合計	1,189	100%

1Q		2Q	
受注高	構成比	受注高	構成比
305	74%	675	87%
160	39%	253	32%
35	9%	246	32%
42	10%	90	12%
41	10%	63	8%
26	6%	23	3%
106	26%	104	13%
50	12%	49	6%
56	14%	55	7%
411	100%	779	100%

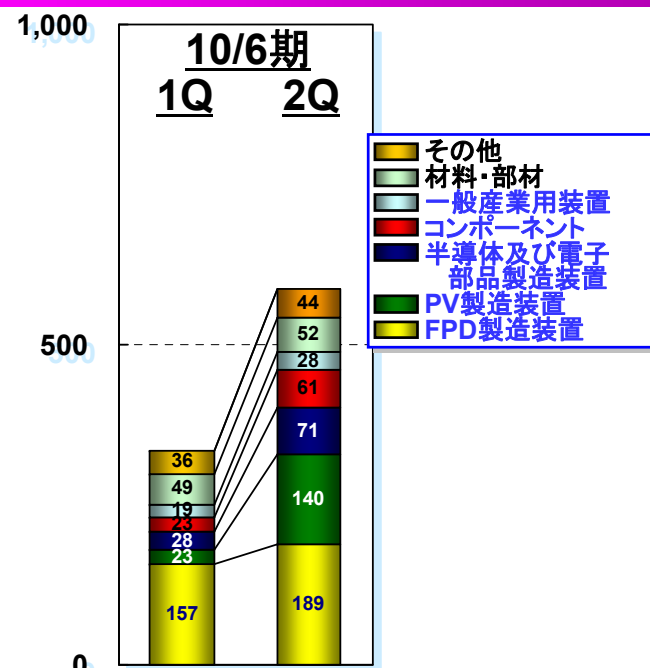
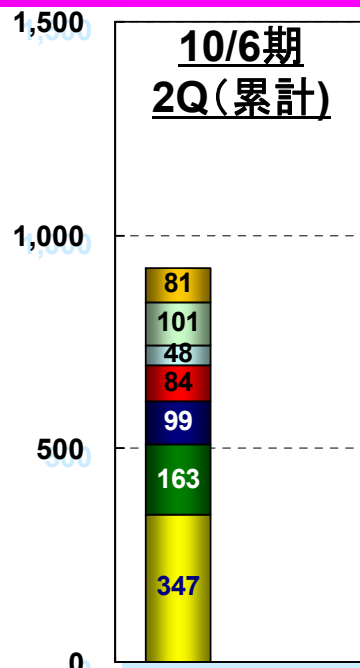
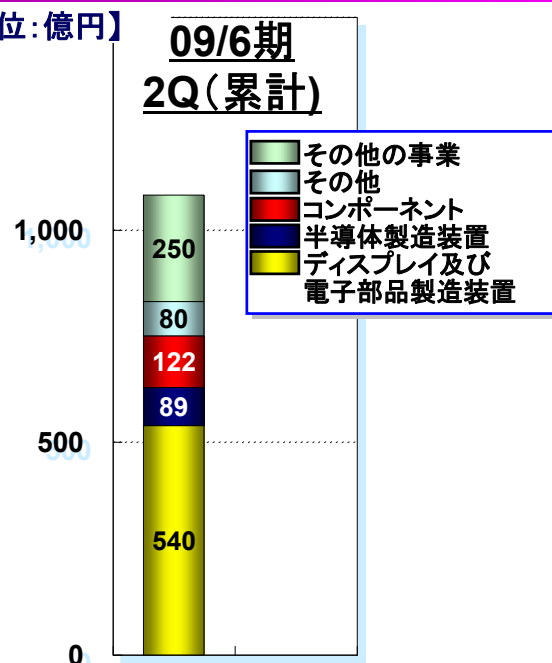
(注)

1) 2010年6月期よりセグメント及び品目の名称が変更されています。

2) 記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

品目別売上高の実績

【単位：億円】



09/6期 2Q(累計)		
品目	売上高	構成比
真空関連事業	831	77%
ディスプレイ及び電子部品製造装置	540	50%
半導体製造装置	89	8%
コンポーネント	122	11%
その他	80	7%
その他の事業	250	23%
合計	1,081	100%

10/6期 2Q(累計)		
品目	売上高	構成比
真空機器事業	741	80%
FPD製造装置	347	38%
PV製造装置	163	18%
半導体及び電子部品製造装置	99	11%
コンポーネント	84	9%
一般産業用装置	48	5%
真空応用事業	182	20%
材料・部材	101	11%
その他	81	9%
合計	923	100%

1Q		2Q	
売上高	構成比	売上高	構成比
251	75%	490	83%
157	47%	189	32%
23	7%	140	24%
28	8%	71	12%
23	7%	61	10%
19	6%	28	5%
85	25%	97	17%
49	14%	52	9%
36	11%	44	8%
336	100%	586	100%

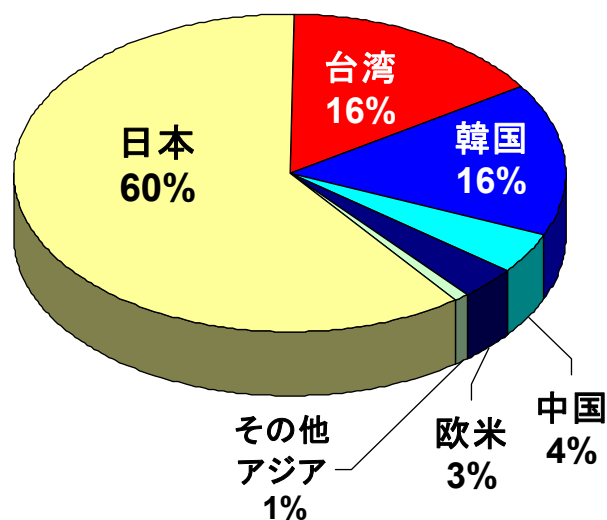
(注)

1) 2010年6月期よりセグメント及び品目の名称が変更されています。

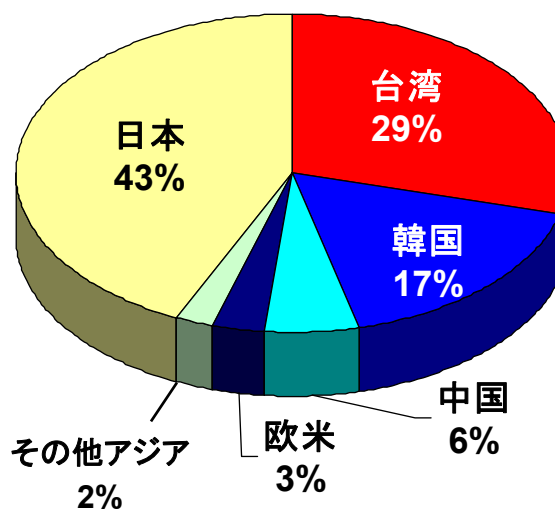
2) 記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。

地域別売上高構成比

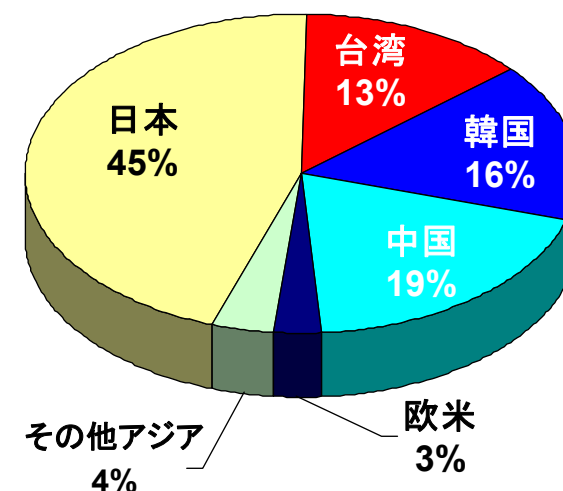
08/6期 2Q(累計)



09/6期 2Q(累計)



10/6期 2Q(累計)



【単位:億円】

地 域	08/6 2Q(累計)	09/6 2Q(累計)	10/6 2Q(累計)
日 本	707	464	415
台 湾	182	316	123
韓 国	182	184	149
中 国	47	60	176
その他アジア	11	24	34
欧米他	38	33	26
合 計	1,167	1,081	923

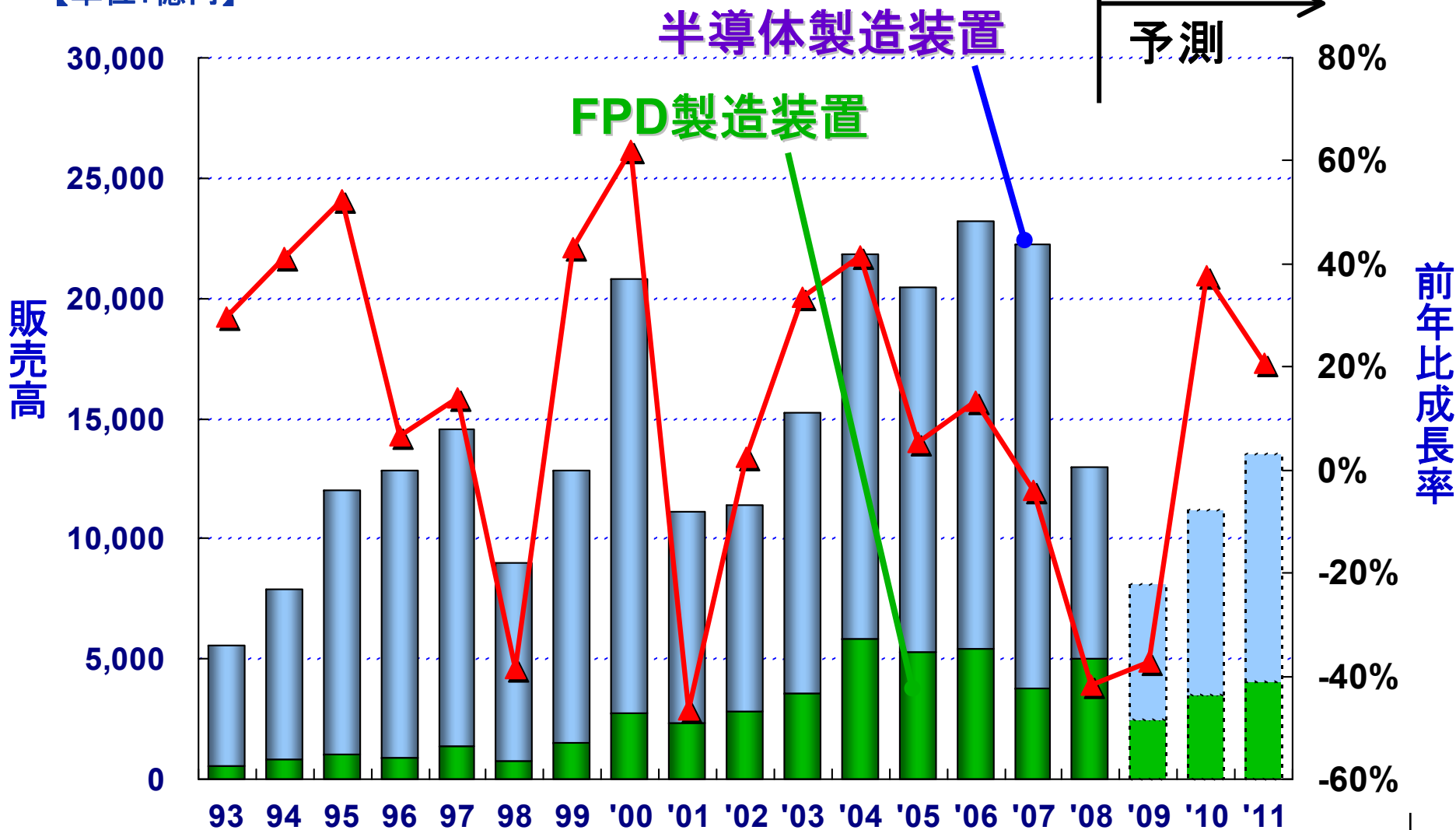
【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

半導体およびFPD製造装置予測

参考資料

【単位：億円】

＜日本製装置販売高予測＞



【出所:2010年1月 SEAJ】

(販売高: 日系企業(海外拠点含む)の国内および海外への販売高)

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック

ULVAC